

風変わりな神

創世記二〇章

するとアブラハムは言った。「この地には、神を畏れるということが全くありませんので、人々は妻のゆえに私を殺すだろうと思つたのです。」(一一)

土地の人々を恐れるあまり、自分の妻を妹だと偽って告げたアブラハムでしたが、神はアブラハムではなく、彼に騙されてサラを召し入れたゲラルの王アビメレクの上に災いを下します。アビメレクに問いつめられて、アブラハムが苦し言い訳をしたのが今日の聖句です。実際には、神を畏れる心を持っていたのはアビメレクであつて、アブラハムは神よりも人を恐れてたのです。責められるべきはアブラハムでした。それにもかかわらず神は、不義なアブラハムを罰せず、正しいアビメレクを裁かれたのです。何という風変わりな神でしょう。正しい者が裁かれて、偽善的な者が裁かれないているのです。しかしこれが私たちの神ではないでしょうか。神は正しいキリストを十字架で裁き、罪ある私たちを赦されたのです。私たちはこの風変わりな神によつて救い出された者たちです。